

# 天空の鉱山「鳥形山」を訪ねる

<須藤 定久>

四国山地の標高1,200mにある巨大鉱山「鳥形山」の素顔を紹介してみよう(本文・表紙参照)。



1. 南東側から見た鳥形山の全景。細かい山巒のある山の上に、ゆったりとした丸いドーム型の雄大な姿だが、頂上から削られ左側山頂部には大きな平坦面が形成されていることがうかがわれる。



2. 採掘場中央部から見た北側残壁。石灰岩の下盤となる粘板岩が露出している。画面左側奥に、現在の山頂(標高1,346.5m)がある。真青な空を切り裂いて東へ飛ぶジェット旅客機の姿がよく見られる。



3. 残壁(写真2)の手前に造られた廃石処理場。残壁を安全かつすみやかに整形するために発生する廃石の保管場所確保のために優先採掘された。手前右側の各段には肥料の入った黒土がまかれ、緑化を待っている。



4. 採掘場中央部から東端部を望む。1.2km先の東端には巨大なダンプや重機のための巨大な整備庫がある。荷台をあげて竖坑No.2に鉱石を投入しているダンプ・トラックが右中央に見える。



5. 鉱山東端部から西方を望む。手前に見えるのは岩石の破碎・篩分装置。採掘場の西端は、左側ピークの後方。右の台地状ピークが現在の鳥形山頂上。画面中央・遠景の山は四国カルストの天狗高原、頂上のスキー場が白く見える。



6. 石灰石の積み込み。120トン積みの超大型ダンプの大きな荷台も、巨大なバケットローダーによる積み込みでたちまち満杯になる。



7. 石灰石の豎坑への投入。石灰石を満載したダンプトラックは500m程走ったところにある豎坑に石灰石を投入し、すぐさま積み込み場所へ引き返す。



8. 須崎事業所の積出し設備。張りめぐらされたベルトコンベアの向こうに、須崎市の中心部、セメント工場が遠望される。左側の半円状屋根は鉄鋼用石灰石の貯鉱場、右側の円筒は砕砂の貯蔵庫。



9. 骨材用石灰石の貯鉱場と1万トン級岸壁、その先に6万トン級岸壁がある。阪神・京葉地区など国内のほか、オーストラリア・シンガポール、香港などに出荷されている。